



2018年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2018年8月9日
東

上場会社名 フィンテック グローバル株式会社 上場取引所
 コード番号 8789 URL <http://www.fgi.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 玉井 信光
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 上席執行役員 (氏名) 千田 高 (TEL) 03-6456-4600
 四半期報告書提出予定日 2018年8月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2018年9月期第3四半期の連結業績(2017年10月1日～2018年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2018年9月期第3四半期	2,286	△60.8	△1,095	—	△1,197	—	△874	—
2017年9月期第3四半期	5,838	17.9	△547	—	△534	—	△551	—

(注) 包括利益 2018年9月期第3四半期 △934百万円(—%) 2017年9月期第3四半期 △529百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2018年9月期第3四半期	△5.23	—
2017年9月期第3四半期	△3.40	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2018年9月期第3四半期	13,393	7,433	45.8
2017年9月期	12,932	5,326	37.1

(参考) 自己資本 2018年9月期第3四半期 6,130百万円 2017年9月期 4,800百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2017年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2018年9月期	—	0.00	—	—	—
2018年9月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2018年9月期の連結業績予想(2017年10月1日～2018年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	4,160	△42.1	△950	—	△1,160	—	△730	△4.28

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

売上総利益の予想は、2,600百万円(前期比59.9%増)であります。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2018年9月期3Q	179,244,400株	2017年9月期	161,935,300株
② 期末自己株式数	2018年9月期3Q	一株	2017年9月期	一株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2018年9月期3Q	167,054,114株	2017年9月期3Q	161,932,084株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間は、投資銀行事業の強化を目的に不動産事業の子会社株式売却やメツァ隣接地の証券化等により確保した資金的リソースや人的リソースを、収益性が高い本業の投資銀行事業に再配分して、事業を推進しました。この結果、前連結会計年度は8億円に留まっていた企業投資・アセット投資（それぞれ流動資産に計上される投融資に限る）の新規投資が、当第3四半期連結累計期間は36億円に達するなど収益獲得のための投融資が進み、さらにM&Aで航空機アセットマネジメント会社（SGI-Aviation Services B.V.等）を子会社化したことにより、投資銀行事業の売上総利益は491百万円増加しました。

当第3四半期連結累計期間の売上高は、連結していた投資先の不動産事業の子会社を売却して前年同期の売上高が3,603百万円であった不動産事業の全ての子会社が連結の範囲から除外されたことなどにより、前年同期比60.8%減の2,286百万円となりましたが、不動産事業が原価率・販管費率の高い事業モデルであったため、売上総利益は前年同期比12.4%減の1,319百万円に留まり、営業損益への影響も軽微でありました（前年同期の不動産事業のセグメント利益は107百万円）。販売費及び一般管理費は不動産事業の費用がなくなったものの、メツァ関連費用6億円及び全社費用8.8億円を計上したことにより2,415百万円（前年同期比17.7%増）となり、投資銀行事業の売上総利益増加に貢献した航空機アセットマネジメント会社は販管費率が高く営業損益への影響は限定的であったため、営業損益は1,095百万円の営業損失（前年同期は547百万円の損失）となりました。経常損失は支払利息50百万円、為替差損41百万円を計上したことにより1,197百万円（前年同期は534百万円の損失）となりましたが、親会社株主に帰属する四半期純損失は不動産事業の子会社株式売却により特別利益に係る会社株式売却益267百万円を計上したことにより874百万円（前年同期は551百万円の損失）となりました。

(単位：百万円)

	2017年9月期 第3四半期連結累計期間	2018年9月期 第3四半期連結累計期間	増減額
売上高	5,838	2,286	△3,552
投資銀行事業	1,891	1,921	29
公共コンサルティング事業	230	294	64
エンタテインメント・サービス事業	115	103	△12
その他	6	13	7
不動産事業	3,603	—	△3,603
消去	△7	△46	△38
売上総利益	1,505	1,319	△186
投資銀行事業	694	1,186	491
公共コンサルティング事業	89	128	39
エンタテインメント・サービス事業	35	36	0
その他	5	13	7
不動産事業	685	—	△685
消去	△5	△45	△39
営業損失(△) (セグメント利益又は損失(△))	△547	△1,095	△548
投資銀行事業	348	401	52
公共コンサルティング事業	△0	△59	△59
エンタテインメント・サービス事業	△215	△639	△424
その他	△14	△14	0
不動産事業	107	—	△107
消去又は全社費用	△772	△783	△10
経常損失(△)	△534	△1,197	△663
税金等調整前四半期純損失(△)	△525	△907	△382
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△551	△874	△323

セグメント別の業績は以下のとおりであり、売上高についてはセグメント間の内部売上高又は振替高を含めた売上高で表示しております。なお、前第2四半期連結会計期間及び前第4四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。また、当社は「不動産事業」を構成していたベターライフサポートホールディングス㈱及びその子会社を連結の範囲から除外した結果、第1四半期連結会計期間より当社グループの報告セグメントは、「投資銀行事業」、「公共コンサルティング事業」及び「エンタテインメント・サービス事業」となりました。

① 投資銀行事業

第1四半期連結会計期間より持分法適用関連会社であった投資運用会社のFGIキャピタル・パートナーズ㈱を連結子会社としております。アセット投資ではメツツァ隣接する不動産を証券化し、売上256百万円、営業利益195百万円を計上し、また運用不動産売却により売上高432百万円を計上する一方で、新規投資を進めました。

ファンド投資においては、米国のベンチャーファンドや国内の企業へ新規投資したものの、投資回収による収益は限定的でありました。なお、投資先である不動産会社の株式を第1四半期に売却しておりますが、株式売却益267百万円は特別利益に計上しております。

また、当社子会社のフィンテックグローバルトレーディング㈱は、合同会社SGIインベストメントを通じて航空機アセットマネジメント業務を行うSGI-Aviation Services B.V.の持株会社であるSGI-Group B.V.の株式を取得（議決権持分51%、利益持分49%）したことにより、当社はSGI-Group B.V.及びその子会社4社を子会社としており、第2四半期連結会計期間より損益計算書を連結しております。

さらに日本における事業承継問題を解決するため、当社は2018年3月にM&A仲介を専門に取り扱うフィンテックM&Aソリューション株式会社を設立し、当第3四半期連結会計期間より連結の範囲に含んでおります。

投資銀行事業の売上高は1,921百万円（前年同期比1.6%増）、セグメント利益は401百万円（前年同期比15.2%増）となりました。

② 公共コンサルティング事業

公共コンサルティング事業は、統一的な基準による財務書類作成のコンサルティング業務と並行して、市場拡大が見込まれるPPP/PFI手法の導入検討や公営企業会計適用を推進しております。そして既取引先である地方公共団体に対しては、経営戦略策定等へのコンサルティング受託の営業活動を推進しております。

また、地方公共団体・公共サービス提供会社等を対象に、米国General Electric Company（以下、「GE」といいます。）の電気/ガス/水道/通信事業者向けネットワーク型資産管理ソフトウェア「Smallworld™」の導入コンサルティング、カスタマイズ、保守・運用支援を提供するネットワークアセットマネジメント事業であるスモールワールド事業を行うために設立された㈱ジオプラン・ナムテックの株式を、当社はGEの代理店である非連結子会社㈱ナムテックの第三者割当増資を引受け同社を通じて取得しました。当社は㈱ナムテック及び㈱ジオプラン・ナムテックを第2四半期連結会計期間末をみなし取得日としてそれぞれ連結の範囲に含めておりますが、当該2社は2018年5月15日付で㈱ナムテックを存続会社、㈱ジオプラン・ナムテックを消滅会社として吸収合併し、商号を㈱ジオプラン・ナムテックとしております。

公共コンサルティング事業の売上高は294百万円、セグメント損失は59百万円となりました。なお、当事業は㈱パブリック・マネジメント・コンサルティング等を連結子会社としたことにより前連結会計年度の第2四半期連結会計期間より報告セグメントとしております。そのため、当第3四半期連結累計期間は当該子会社を当社の連結の範囲に含む期間が前第3四半期連結累計期間と異なるため、前年同期比は記載しておりません。

③ エンタテインメント・サービス事業

エンタテインメント・サービス事業では、メツツァビレッジについて開業日を2018年11月9日として北欧企業をはじめとするテナントの契約を進めました。ムーミンバレーパークについては、グランドオープンを2019年3月16日に決定して、各種コンテンツのデザインなどの準備を進めました。施設の建設工事は一部を除いて上棟し内外装等の仕上工事が進行しており、この他にも、施設周辺の環境整備や具体的な運営オペレーションの検討、運営スタッフの募集なども進んでおります。

なお㈱ムーミン物語は、2018年3月16日付で㈱タトル・モリ エージェンシー、Moomin Characters Oy Ltdとと

もに、日本のムーミンのライセンスを一括管理する(株)ライツ・アンド・ブランドズを設立しました。これにより、テーマパーク事業、ライセンス事業が統一した戦略をとり、また中長期的な視野から事業領域を積極的に開拓することで、ムーミンのブランドバリューを一層向上させ、新たなファン層を取り込み更なる市場の拡大を実現することを目指しております。

また(株)ムーミン物語は、財務基盤強化のため複数の大手企業等に対して第三者割当増資を実行し、当第3四半期連結累計期間に1,573百万円を調達しました。さらに当第3四半期連結会計期間後にも、当社グループ外の企業等に対する第三者割当増資により、2018年8月10日を払込期日として95百万円を調達する予定であります。

エンタテインメント・サービス事業の売上高は103百万円（前年同期比10.8%減）となり、セグメント損失はメツァの先行投資の影響により639百万円（前年同期は215百万円の損失）となりました。

④ その他

(株)アダコテックは、解析システムの適用・組み込み等大手企業を中心に多数のプロジェクトを進めました。当第3四半期連結会計期間後には(株)三井E&Sマナリーが提供するトンネル覆工検査（電磁波レーダ法によるトンネル検査で得られる3次元レーダ解析画像から、覆工コンクリート内部の異常有無を判定する）サービスに、(株)アダコテックの機械学習技術を組み合わせることで、検査判定の自動化を実用化しました。2018年中に、更にいくつかのプロジェクトの市場投入を見込んでおります。

その他の売上高は13百万円（前年同期比128.8%増）、セグメント損失は14百万円（前年同期は14百万円の損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(総資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末より3.6%増加し、13,393百万円となりました。これは主として、不動産事業の子会社各社の連結除外やメツァ隣接地の売却、運用不動産の売却により販売用不動産が1,984百万円、土地が1,032百万円減少したものの、現金及び預金が228百万円、SGI-Aviation Services B.V.等の新規連結や公共コンサルティング事業の自治体等に対する受託業務の完了が3月末であることにより受取手形及び売掛金が284百万円、新規投資及びファンド投資の収益取込みにより営業投資有価証券が746百万円、ムーミンバレーパークの建設工事により建設仮勘定が2,225百万円、SGI-Group B.V.等の株式取得によりれんが280百万円増加したことによるものであります。

なお、仕掛販売用不動産については、不動産事業の子会社の連結除外により減少しましたが、不動産開発案件への投資、メツァビレッジ工事代金支払により減少額は22百万円に留まり、第1四半期連結会計期間末からは1,411百万円、第2四半期連結会計期間末からは44百万円増加しました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は前連結会計年度末より21.6%減少し、5,959百万円となりました。これは主として、不動産事業の子会社各社の連結除外、及び特別目的会社である子会社の長期借入金2,000百万円（注）を1年内返済予定の長期借入金に振り替えたことにより、短期借入金2,726百万円、長期借入金2,698百万円減少したものの、1年内返済予定の長期借入金3,025百万円増加したことによるものであります。（注）当該借入返済時に、金融機関等が当該特別目的会社に対し貸付を実行する契約となっています。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末より39.6%増加し、7,433百万円となりました。これは主として、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により、利益剰余金が873百万円減少したものの、第18回新株予約権の行使により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ756百万円増加し、(株)ムーミン物語の増資等により資本剰余金が683百万円、非支配株主持分が767百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

	売上高 (百万円)	売上総利益 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に帰属 する四半期純利益 (百万円)
2018年9月期 (予想)	4,160	2,600	△950	△1,160	△730
2017年9月期 (実績)	7,182	1,626	△1,319	△1,341	△1,358
増減率	△42.1%	59.9%	—	—	—
増減額	△3,022	973	369	181	628

連結業績予想は上記の通りであり、2018年5月28日公表の連結業績予想に変更はありません。

第4四半期連結会計期間には、当社出資のベンチャーキャピタルファンドであるFinTech GIMV Find, L.P. が投資するライフサイエンス・プロジェクトがエグジットし、当社は2018年7月26日付で6,652千米ドル（当社帰属の実質的な分配額は5,322千米ドル、日本円で5.8億円）の分配金を受領しておりますが、当該エグジットが反映されたファンド決算書の受領による収益計上を見込んでおります。また、前連結会計年度及び当第3四半期連結累計期間における新規投資の一部回収を見込むなど、企業投資及びアセット投資の回収による収益計上を見込んでおります。

営業損益については、上記のとおり営業損益への貢献度が高い企業投資及びアセット投資の回収を見込んでおり、投資銀行事業のセグメント利益は前連結会計年度の80百万円から1,017百万円増加して1,098百万円を見込んでおりますが、メツァ関連費用及び全社費用を賄うには至らず、950百万円の営業損失になると見込んでおります。

なお当社グループのアセット売却・回収による売上高は、物件売却の有無や金額によって大きく変動するため、これらを含む売上高は当社グループの実質的な経営成績の伸長や悪化を示すものとはいえません。このため、当社グループの収益実態をより分かり易くご理解いただくには、売上高より売上総利益がより適切と考え、2018年5月28日公表の業績予想では売上総利益は開示していないものの、今回、上記のとおり追加的に開示しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2017年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,219,805	3,448,148
受取手形及び売掛金	196,840	481,324
営業投資有価証券	1,069,032	1,815,346
営業貸付金	609,147	590,924
商品	10,084	18,382
販売用不動産	2,287,519	302,981
仕掛販売用不動産	2,556,159	2,533,685
繰延税金資産	17,853	532
その他	239,382	448,544
貸倒引当金	△83,739	△116,768
流動資産合計	10,122,083	9,523,102
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,539,871	506,943
建設仮勘定	95,848	2,321,615
その他	602,514	363,904
有形固定資産合計	2,238,234	3,192,463
無形固定資産		
のれん	8,750	289,273
その他	29,858	51,166
無形固定資産合計	38,609	340,439
投資その他の資産		
投資有価証券	100,543	111,560
その他	433,052	225,900
投資その他の資産合計	533,596	337,460
固定資産合計	2,810,440	3,870,363
資産合計	12,932,524	13,393,465

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2017年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	152,025	99,791
短期借入金	2,751,380	24,994
1年内償還予定の社債	30,000	—
1年内返済予定の長期借入金	293,847	3,319,058
未払法人税等	42,335	34,455
賞与引当金	72,795	56,705
繰延税金負債	7,967	1,544
その他	435,078	1,485,084
流動負債合計	3,785,430	5,021,634
固定負債		
社債	30,000	—
長期借入金	3,513,399	814,515
繰延税金負債	113,485	—
退職給付に係る負債	119,661	85,462
その他	44,085	38,144
固定負債合計	3,820,631	938,122
負債合計	7,606,062	5,959,756
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,549,016	5,305,195
資本剰余金	1,812,727	3,252,490
利益剰余金	△1,560,954	△2,434,036
株主資本合計	4,800,789	6,123,649
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△530	12,846
為替換算調整勘定	—	△6,290
その他の包括利益累計額合計	△530	6,555
新株予約権	50,142	59,673
非支配株主持分	476,060	1,243,829
純資産合計	5,326,461	7,433,708
負債純資産合計	12,932,524	13,393,465

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2016年10月1日 至2017年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2017年10月1日 至2018年6月30日)
売上高	5,838,996	2,286,483
売上原価	4,333,425	967,095
売上総利益	1,505,571	1,319,387
販売費及び一般管理費	2,052,768	2,415,156
営業損失(△)	△547,196	△1,095,768
営業外収益		
受取利息	484	6,623
為替差益	60,371	—
持分法による投資利益	11,623	—
債務時効益	5,336	4,916
その他	9,187	623
営業外収益合計	87,004	12,163
営業外費用		
支払利息	57,034	50,935
為替差損	—	41,485
支払手数料	16,659	20,633
その他	283	1,119
営業外費用合計	73,978	114,174
経常損失(△)	△534,169	△1,197,780
特別利益		
固定資産売却益	804	—
関係会社株式売却益	—	267,387
新株予約権戻入益	9,178	12,606
その他	—	11,069
特別利益合計	9,983	291,063
特別損失		
固定資産除却損	5	670
固定資産売却損	1,075	—
特別損失合計	1,081	670
税金等調整前四半期純損失(△)	△525,267	△907,387
法人税、住民税及び事業税	31,491	30,106
法人税等調整額	△4,637	794
法人税等合計	26,853	30,900
四半期純損失(△)	△552,121	△938,288
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△993	△63,779
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△551,128	△874,509

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2016年10月1日 至 2017年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年6月30日)
四半期純損失(△)	△552,121	△938,288
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	23,016	13,376
為替換算調整勘定	—	△9,096
その他の包括利益合計	23,016	4,279
四半期包括利益	△529,105	△934,008
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△528,111	△867,423
非支配株主に係る四半期包括利益	△993	△66,585

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 2016年10月1日 至 2017年6月30日)

1 配当金支払額

該当事項はありません。

2 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2017年10月1日 至 2018年6月30日)

1 配当金支払額

該当事項はありません。

2 株主資本の著しい変動

当第3四半期連結累計期間において、新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ756,178千円増加しております。また、当社の連結子会社である㈱ムーミン物語が当社グループ外の企業等に複数回の第三者割当増資を行い、資本剰余金が566,138千円増加しております。これらの事項とその他の変動を含めた結果、当第3四半期連結会計期間末において、資本金が5,305,195千円、資本剰余金が3,252,490千円となっております。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2016年10月1日 至 2017年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	投資銀行 事業	不動産事業	公共コンサル ティング事業	エンタテイン メント・ サービス事業	計				
売上高									
外部顧客 への売上 高	1,888,770	3,603,058	228,607	112,536	5,832,972	6,024	5,838,996	—	5,838,996
セグメン ト間の内 部売上高 又は振替 高	3,023	—	1,799	3,002	7,826	—	7,826	△7,826	—
計	1,891,794	3,603,058	230,407	115,539	5,840,799	6,024	5,846,823	△7,826	5,838,996
セグメン ト利益又 は損失 (△)	348,137	107,433	△34	△215,070	240,465	△14,745	225,719	△772,916	△547,196

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、連結子会社が行っているソフトウェアの開発・販売事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△772,916千円には、セグメント間取引消去39,960千円及び報告セグメントに配分していない全社費用△812,876千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2017年10月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	投資銀行 事業	公共コンサル ティング事業	エンタテイン メント・ サービス事業	計				
売上高								
外部顧客 への売上 高	1,881,329	289,844	101,527	2,272,701	13,782	2,286,483	—	2,286,483
セグメン ト間の内 部売上高 又は振替 高	40,102	5,000	1,537	46,639	—	46,639	△46,639	—
計	1,921,432	294,844	103,064	2,319,341	13,782	2,333,123	△46,639	2,286,483
セグメン ト利益又 は損失 (△)	401,005	△59,415	△639,737	△298,147	△14,092	△312,240	△783,528	△1,095,768

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、連結子会社が行っているソフトウェアの開発・販売事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△783,528千円には、セグメント間取引消去97,040千円及び報告セグメントに配分していない全社費用△880,569千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整しております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第1四半期連結会計期間において、当社が保有するベターライフサポートホールディングス㈱の全株式を譲渡し、連結の範囲から除外したことにより前連結会計年度の末日に比べ、「不動産事業」のセグメント資産が5,740,285千円減少しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より、従来「その他」に含まれていた「エンタテインメント・サービス事業」について、テーマパークの建設工事着工がなされ、事業セグメントとして認識し、重要性が高まったことにより報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、当第3四半期連結累計期間の比較情報として開示した前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントにより作成しており、前連結会計年度に開示した第3四半期連結累計期間に係る報告セグメントとの間に相違が見られます。

また、当社は、「不動産事業」を構成していた当社保有のベターライフサポートホールディングス㈱の全株式を第1四半期連結会計期間に譲渡いたしました。

この結果、第1四半期連結会計期間より、当社グループの報告セグメントは、「投資銀行事業」、「公共コンサルティング事業」及び「エンタテインメント・サービス事業」となりました。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「投資銀行事業」において、第1四半期連結累計期間に、当社の連結子会社であるフィンテックグローバルトレーディング㈱が設立した合同会社SGIインベストメントが、SGI-Group B.V.の株式を新規取得しております。なお、当該事象による「投資銀行事業」ののれんは、当第3四半期連結会計期間においては195,020千円であります。

また、「公共コンサルティング事業」において、第2四半期連結累計期間に、当社の連結子会社である㈱ナムテックが、㈱ジオプラン・ナムテックの全株式を取得しております。なお、当該事象による「公共コンサルティング事業」ののれんは、当第3四半期連結会計期間においては87,046千円であります。

(重要な負ののれんの発生益)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。